

神の国の宴会の席

ルカによる福音書 13:22-30

(そのとき、) イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。」

説教

わたしたちは「救い」について思いを巡らすとき、自分自身の救いを中心に思うことがしばしばあります。それから、家族の救い、友人の救いと想いを広げていきます。では、むかしの人たちはどのように「救い」をイメージしていたのでしょうか。

「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。ルカ13:23

この問いをイエスに訊ねた人の「多い、少ない」はたくさんの人、ほんの一握りの人をイメージしていたのか、それともたくさん家族、たくさん同

朋、たくさんの民族をイメージしていたのでしょうか。

イエスの旅はエルサレムに向かう旅です。ローマ帝国の占領下にあるイスラエルの首都に向かう旅でした。ユダヤ民族は救われるのか、それともローマの前に崩壊してしまうのか、そのなかで救われる同朋は多いのか、少ないのか、そのような問いだったのでしょうか。そして、この問いの裏にはメシアなら国を救ってください、という切実な思いが含まれていたはずです。

イエスはその人の期待に対してこう答えました。

あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ざしりする。そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。ルカ 13 : 22-30

このイエスの預言は実現しました。復活のイエスと聖霊に導かれた使徒たちの働きによってイエスの教えは東西南北と世界に広がり多くの国の人々が「神の国の宴会」の席につき「後の人で先になる者」となりました。そして多くのユダヤ人たちはローマ軍によって滅ぼされ、残された人々もユダヤの地にとどまることは許されず散らされました。

いまに生きる私たちも「聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられるみ子イエス」に問いかけてみましょう。

「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」

わたしたち一人ひとりが我とわが身を振り返り、主に訊ねてみましょう。そしてお願いしましょう。

主よ、どうぞお答えをお聞かせください。

わたしたちに明日への希望をつなぐ、神の恵みのしるしが見いだされますように。
